論文

子ども虐待のイメージと女性のエンパワーメントの可能性を探る

高橋（たかはし）　佐知子（さちこ）

＜キーワード＞
・子ども虐待　・ジェンダー役割（意識）　・母性愛　・「躾」と「虐待」・親権

＜要　旨＞

近年、子ども虐待に対する関心は高まって来てはいるものの、社会的には未だ“虐待”と“母親（あるいは母性及び母性愛）”を強く結びつけているジェンダー役割意識が根強く、同じ虐待という現象を扱っていても、父親が虐待している場合と母親が虐待している場合では報道のされ方が違い、女性のエンパワーメントが殺がれているのが現状である。子ども虐待は、虐待するに至った過程やその心情を理解・共感する気持ちがなく、ただ虐待をしてしまっている親を責めるだけでは何も解決しない。今回、子ども虐待に関するイメージについて調査したところ、虐待の事例に「対処すること（行動）に積極的」である者の方が虐待の行為や虐待者に否定的感情を抱いていることがわかり、現実的に効果的なアプローチにつながる可能性の低いことが示された。社会制度上での変革がなされなければ、人々の意識の変革は起こり難い。また、メディアも方向性によっては正しい理解を導くことが可能であり、偏見に対応するための知識の啓蒙普及によるイメージ修正の方法を今後、検討することが重要である。母性愛は経験的に学習するものであり、初めての育児には不安がつきものであるという事実を社会に広く知らしめ、核家族化による情報不足に十分対応出来るような社会・育児支援システムを早急に確立する必要性があるが、子ども虐待をせざるを得ない、育児の責任を社会的に押しつけられている女性もまた弱者であるということを忘れてはならない。

Ⅰ　はじめに

本年は、国内の関係者が一同に会して活動することを目的として、日本子どもの虐待防止研究会が発足した、日本の虐待防止元年とも言える年である。と同時に、社会的にも子ども虐待に関する関心が高まって来ているが、まだまだ興味本位な取り上げられ方が多く、正確な事実に基づいた情報を得られる場は少ないのではないだろうか。国立婦人教育会館に於ける平成８年度（1996年）女性学・ジェンダー研究フォーラムにおいて、私たちがワークショップ『子ども虐待を考える　～　母親を虐待の悪循環から救出するには』というテーマを企画した際に、発表時間の制約と参加者の大部分が女性であるということを考慮して、特に母親に焦点を当てて実施したが、虐待を巡る偏見には“虐待”と“母親”を強く結びつけているものが多く、そうしたイメージが女性（引いては母親になろうとしている人たち）のエンパワーメントを殺いでいるのではないだろうか、という指摘もワークショップでなされた。同じ虐待であっても、父親が虐待している場合と母親が虐待している場合では、報道の内容が感情的にかなり違いがあり、母親の場合には“母性の低下”という結果に結びつけられてしまうことが多いように感じられる。

本稿においては、子ども虐待に関する一般的なイメージとジェンダー役割のイメージとの関連性について調査した結果をもとに、女性（母親）のエンパワーメントの可能性を検討したい。

Ⅱ　研究目的

子ども虐待に対する一般的なイメージを捉え、ジェンダー役割イメージとの関連性を明らかにし、子ども虐待問題で特にエンパワーメントを殺がれている女性（母親）への効果的なアプローチについて考察する。

Ⅲ　研究方法

①対象及び調査内容：Ｊ大学在校生（2200名）を対象に、質問紙法（質問紙は巻末に添付）により、子ども虐待に対する具体的なイメージや基礎的な知識について回答を得た。

今回の調査は、次回以降に予定している調査のためのコントロール群として実施した。コントロール群の条件として、a：ある程度の自我状態の発達を果たしており、b：自分の意見がある程度、固まっている可能性があり、c：社会経験のない者（除・アルバイト経験）として、今回は一般大学生を選定した。実際に虐待された経験のある者との傾向比較や援助者グループとの傾向比較、援助者への教育によるイメージ修正の効果判定については次稿以降（「子ども虐待のイメージと女性のエンパワーメントの可能性を探る　②～④」）に譲る。

②調査時期：1996年（平成８年）６月～７月

③分析方法：子ども虐待やジェンダー役割についてのイメージを方向性で分類し、イメージの傾向と得点の差を比較検討する。

Ⅳ　結果

回収率は34.9％（有効回答率34.8％）で、回答者の属性は図１～５の通りであった。

【子ども虐待のイメージ】設問１では「虐待」の具体的なイメージを自由記載してもらったが、該当項目を抽出して集計した所、図６の様な結果になった。ＮＡ（無回答・無効回答）を除外した一人当たりの平均回答数は1.68項目で、回答は大きく３群に分けられた。

①虐待の４分類に相当する回答

a：身体的虐待（殴る・蹴る・（物などで）叩く・煙草の火を押し付けるなど）

b：心理的虐待（言葉による暴力・他の兄弟姉妹との差別など）

c：性的虐待（養育者による性的な行為）

d：ネグレクト（食事を食べさせない、家に入れない、汚れたまま放置するなど）

②親の状態について言及した回答

a：母親について言及した回答

b：父親について言及した回答

c：精神状態について言及した回答

d：親の年齢について言及した回答

③その他（自分の感想や聞いたことのある外国の有名な実例などを述べた回答）

最も多かったのは目につき易い身体的虐待で回答者の６割以上が挙げており、虐待と身体への暴力というイメージが強く結びついていることや、性的虐待に関しては被害者となりやすい女性の回答率が男性の倍以上の比率を占め、「虐待者が母親である」というイメージも女性の方が強かった。

【子ども虐待に対する態度】設問２では、具体的にもしかしたら“虐待かもしれない”事例に対し、あなたがどうするか（行動）とその理由を聞いた。それぞれの回答を、行動面では「虐待の事態の解決のために何らかの行動を起こす」と回答した者を積極的なグループとし、「特に何もしない」や「虐待の事態の解決に無関係な行動を起こす」と回答した者を消極的なグループとした。理由面では「子どもが可哀想」などの「虐待の事態の解決動機になる」理由を挙げた者を積極的なグループとし、「うるさい」や「迷惑」などの「虐待の事態の解決を目的にしない」理由を挙げた者を消極的なグループとし、行動面で積極的なグループをＡ群、消極的なグループをＢ群、理由面で積極的なグループを１群、消極的なグループを２群とした所、表１（回答者実数）の様になった。行動と理由の方向性についての関連性はχ^2検定で有意水準５％で関連性有りと認められた。また、行動面での分類（表２）と理由面での分類（表３）も以下に示したが、複数回答を含んでいる。

【ジェンダー役割イメージと虐待のイメージとの関連について】設問３ではジェンダー役割のイメージと虐待のイメージについて、「全くそうだ（７点）」から「どちらでもない（４点）」を中心に「全くちがう（１点）」までの７段階評価で聞いたところ、積極性によるイメージの差は図７の通りである。また、各群の平均値の差において有意差が認められた項目を表４に示した。また、各項目の関連性について有意水準５％で関連ありと認められた項目を表５に示した。その結果、各群で最も意見が分かれたのは設問３－９「子どもを虐待するのは母親よりも父親の方が多いと思う」であり、６つの設問で有意差が認められたのはＡ１群（行動も理由も積極的なグループ）とＢ２群（行動も理由も消極的なグループ）であった。設問３－９では、Ｂ１群（行動は消極的だが、理由は行動的なグループ）のみが、他の群よりも「虐待するのは母親」という思い込みが強く、１点以上の得点差が認められている。理由のほとんどが「子どもが可哀想」であったこともこの傾向を強調している。Ａ１群とＢ２群との比較では、以下の６項目で有意差が認められた。

３－５：乳幼児が親の言うことを聞かなければ、体罰も仕方がないと思う。
（Ａ１群　2.65に対し、Ｂ２群　3.04）

３－10：子どもを虐待する親は育児が下手だと思う。
（Ａ１群　5.37に対し、Ｂ２群　5.01）

３－11：子どもを虐待する親には同情出来ない。
（Ａ１群　5.34に対し、Ｂ２群　4.87）

３－12：子どもを虐待する親の気持ちは理解出来ない。
（Ａ１群　4.93に対し、Ｂ２群　4.52）

３－13：子どもを虐待する親には社会的制裁が加えられるべきだと思う。

（Ａ１群　5.40に対し、Ｂ２群　4.88）

３－14：子どもを虐待する親には適切な治療がなされるべきだと思う。

（Ａ１群　6.09に対し、Ｂ２群　5.48）

【子ども虐待の範囲の認識について】設問４－１で「躾」と「虐待」の違い（図８－ＡＢ）とは何かという問いに対して、自由記載してもらった所、男性は比較的愛情の有無や暴力の有無といった傾向を示し、女性は比較的程度や方法の問題（過度・適度、常識の範囲、アメとムチ）といった傾向を示している。設問４－２で「親権」とは何か（図９）という問いに対して、字をそのまま読んだ「親の権利」という回答が圧倒的に多かった。

Ⅴ　考察

【子ども虐待のイメージ】子ども虐待のイメージについては、回答者の６割以上が身体的虐待を挙げており、心理的・性的虐待については一般的なイメージにはなっていないことを示している。心理的・性的虐待は家族外へは最も見えにくいものであり、隠せるものであるため、比較的表面化しにくい。親の状態について言及した回答については、精神状態（親がノイローゼや精神病である）を挙げている回答が最も多く、“自分とは無関係”やその他で外国の話を挙げている者が多く、“遠い世界”での出来事という印象が強く、偏見性が高いと考えられる。今後、子ども虐待の適切な定義を一般の広く知らしめる必要があると考えられる。また、「虐待者が母親である」というイメージは女性の方が強く、女性自身がジェンダー役割意識に縛られており、エンパワーメントを殺がれている可能性を示唆している。

【子ども虐待に対する態度及びジェンダー役割のイメージと子ども虐待のイメージの関連について】実際に子ども虐待の事例に対応するとき、最も障害になるのが「女性には生まれつき母性愛がある」「育児は母親の責任である」という一般的に「常識」とされている「思い込み」である。今回の調査で「一般的に女性には母性愛があると思う」という設問３－１の全体平均値は5.7（大体そうだ）で、対になる「一般的に男性には母性愛がないと思う」という設問３－２の全体平均値は3.2（ややちがう）であったが、項目の関連性から見ると、「女性には母性愛がある」と回答している者と「必ずしも女性には母性愛がある訳ではない」と回答している者では、前者の方が「男性には母性愛がない」と回答している者の率が高い。また、「一般的に母親の方が育児がうまいと思う」という設問３－３の全体平均値は4.9（ややそうだ）で、対になる「一般的に父親は育児が下手であると思う」という設問３－４の全体平均値は3.7（どちらでもない）であった。設問３－１及び３－２と同様に「母親は育児がうまい」と回答している者の方が「父親は育児が下手」という回答をしている者の率が高かった。親としての資質を性別に割り当て、父性は男性、母性は女性と安易に結び付ける傾向があり、「母性」を「生んだ母親」に限定する見方は、子持ちの女性を「母性」に閉じ込め、それ以外の人々を「母性」から排除する役割を果たす［上野編　1996　98－99］と指摘されている通り、平均値的には女性は育児というステレオタイプ的な考え方をする者は減少したものの、まだまだ従来のジェンダー意識を持っている者は旧態依然のジェンダー観を根強く持っていることが伺える。したがって、子ども虐待の事例に対応する人々の中にもこうしたジェンダー意識を（潜在・顕在的に）持っている者もおり、この意識のもとに対応に当たっている可能性を考えなければならないと言えよう。さらに、図７及び表４～５より、行動面でも理由面でも積極的な者は虐待をしてしまっている親に対して、必ずしも好意的な感情を抱いていない。まだ行動面でも理由面でも消極的な者の方が親の心情を理解しやすい可能性を持っていることがわかった。子ども虐待という現象は虐待するに至った過程やその心情を理解・共感する気持ちがなく、ただ虐待をしてしまっている親を責めても何も解決しない。そういった意味では、今回の結果は事例に「対処すること（行動的）に積極的」ではあっても、虐待の行為自体に否定的感情を抱いているために、現実的に効果的なアプローチ（＝子ども虐待を解決する）につながる可能性が低いと言わざるを得ない。子ども虐待の事例に携わる人々にこの点について十分認識してもらう必要性を強く感じざるを得ない。

【子ども虐待の範囲の認識について】設問４－１で「躾」と「虐待」の違いについて聞いた所、ＮＡ（無回答・よくわからないと回答した者）が最も多く、あまり日常で考えられている内容ではないことが伺えたが、有効な回答としては「愛情の有無」「暴力の有無」「適度・過度」「感情的かどうか」が代表的回答であった。しかし、育児の実際を考えると程度差はあれ、どの回答も当てはまるのではないだろうか。また、最も多かった「愛情の有無」という説では“子どもは可愛いのに、虐待してしまう”という事例には全く対応出来ない。筆者の体験では、子どもを殴ったり蹴ったりしてしまった後に、「ごめんね。」と言いながら、子どもを抱き締めている事例の方が多い。どこまでを「躾」として、どこからを「虐待」とするのかは、親子の関係性という個人の領域であるために、明確な線引きはできないが、日常から親子で対等に話し合える雰囲気があれば子ども虐待は予防できるのではないだろうか。設問４－２では

子ども虐待の事例に関わるときに必ず使われる「親権」とは何かについて聞いたところ、圧倒的に字をそのまま読んだ「親の権利」という回答が多かった。民法第818条から第837条に親権とは、「親権者の子（未成年）に対する監護教育の権利及び義務」と規定されているが、実際には親が子どもに対してできることが決められており、義務の内容についてはまったく記載がない。その事実を反映してか、“親権というのは義務をまっとうしている人間に与えられているのに、子どもを虐待している親、義務をまっとうしていない親が親権という言葉を口にする”［木下　1994　8－9］という奇妙な現象が至るところで起きている。

子ども虐待という現象は「育児は母親の責任」「母親の母性愛」という偏見の押しつけだけでは解消出来ない。しかし、意識の上では未だにステレオタイプ的なイメージが社会の大勢を支配しており、設問２で“親らしきひと”が行っているという指示に対して、回答者は設問３で虐待者は“母親”という想像をしている。これはまさに意識・イメージの上で、ジェンダー役割を肯定していると考えられる。“母性愛”ではなく、女性・男性のどちらでも通用する“親性”の様な言葉で表現してはどうか［上野編　1996 98－99］という指摘もなされているが、社会（制度）上での変革がなされなければ、人々の意識はなかなか変えられるものではない。そもそも、子ども虐待という現象は母親と子どもという対等ではない２者間に育児を閉じ込めてしまうことで発生頻度は高くなる。近年の出生率の低下で育児期は短くなっており、それが過ぎ去ってしまうと、経験しているはずの女性であっても現在大変な思いをしている女性の辛さを共感できなくなり、女性同士の間ですら連帯が持てない。ましてや女性が「母親なのに育児がうまく出来ない」と、自分自身を追い詰めている場合すらある。母性愛は経験的に学習するものであり、初めての育児には不安がつきものであるということを社会に広く知らしめ、核家族化による情報不足に十分対応できるような社会・育児支援システムを早急に作る必要性があると思われる。

また、設問１のその他の回答に多く含まれていた「外国の事例」や「ワイドショーで見たことがある」などの回答はメディアによる一種の洗脳効果であるとも考えられるが、メディアの方向性によっては現状の正しい理解に持って行くことも可能である。「子ども虐待は育児ノイローゼの母親がするもの」といった偏見を報道するのではなく、偏見に対応するための知識の啓蒙普及によるイメージ修正の方法のひとつとして考えていきたい。

Ⅵ　終わりに

アメリカで子ども虐待に携わってきた森田は次のように指摘している。子ども虐待という現象で子どもは弱者なのではなく、弱者の地位に押し込められているだけである。エンパワーメントのアプローチを身に付けるにはまず弱者とさせられてきた者の立場に立つことが出来なければならない［森田　1995　35－37］。しかし、現状では子ども虐待をせざるを得ない、育児の責任を社会的に押し付けられている女性もまた弱者であることが忘れられてしまっているのではないだろうか。母性神話で身動きができなくなっている女性たちの声を反映させる支援体制の必要性を強く感じる。1995年に発足した民間団体「子ども虐待を考える会」もこのような経緯から発足したものである。今後、真の支援団体となれるように援助体制の拡大と充実に力を注ぐことが望まれる。

なお、本研究の限界は調査対象が大学在学中の学生であり、本質的に親ではなく、「子どもの側」にいる者の意見を対象にしたものであるという点である。回答者は実際に“虐待される子どもの側”に近い立場であるため、何らかの偏りが存在する可能性を含んでいる。今後、子ども虐待に関するイメージの教育による修正効果について検討を重ね、さらに研究結果を提示したい。最後に、本研究を進めるに当たり、契機を下さった国立婦人教育会館及び平成８年度ジェンダーフォーラムのワークショップにおいて貴重なご意見をお寄せ下さった皆様に深く感謝致します。

（城西国際大学大学院　人文科学研究科女性学専攻　修士課程／Graduate School of Josai International University）
（子ども虐待を考える会・本部　教育担当）

Ⅶ　引用・参考文献

引用文献

上野　千鶴子＋メディアの中の性差別を考える会編　1996　『きっと変えられる性差別語』　三省堂
木下　淳博　1994　『ＣＡテキストブック No. 4　親権について』　子どもの虐待防止センター
森田　ゆり　1995　『子どもの虐待』　岩波書店

参考文献

池田　由子　1987　『児童虐待』　中央公論社
大日向　雅美　1990　「日本社会の変遷と母性」『こころの科学』30　日本評論社　pp85－91
大日向　雅美　1996　「母性から育児性へ」『現代のエスプリ』342　至文堂　pp116－122
春日　キスヨ　1990　「母性神話のとらわれ」『こころの

科学』30　日本評論社　pp77－84
斉藤　学　1992『子供の愛し方のわからない親たち』　講談社
椎名　篤子　1994『親になるほど難しいことはない』　講談社
椎名　篤子編　1995『凍りついた瞳が見つめるもの』　集英社
田中　和子・諸橋　泰樹　1996　『ジェンダーからみた新聞のうら・おもて』　現代書館

表１　積極性を基準にしたグループ分け

理由面 ＼ 行動面	行動面で「積極的」なグループ	行動面で「消極的」なグループ
理由面で「積極的」なグループ	Ａ１群　２８８名（４２．６％）	Ｂ１群　８名（　１．２％）
理由面で「消極的」なグループ	Ａ２群　１０８名（１６．０％）	Ｂ２群　２７２名（４０．２％）

但し、ＮＡ（無回答・無効回答）を除外してある。

表２－１　行動面での分類（男性）

Ａ１群

・親に注意する	６３名
・止める	５４名
・誰かに相談する（大家・近所・専門家など）	３４名
・親に理由を聞く	２２名
・訪ねる・様子を見に行く	１５名
・親と相談する	１０名
・その他	４名

Ｂ１群

・何もしない・様子を見る	５名
・その他	１名

Ａ２群

・誰かに相談する（大家・近所・専門家など）	２３名
・親に注意する	２０名
・止める	９名
・親に理由を聞く	８名
・様子を見に行く	３名
・子どもに聞く	３名
・その他	５名

Ｂ２群

・何もしない	１８６名
・引っ越す	１名
・その他	３名

表２－２　行動面での分類（女性）

A１群		B１群	
・止める	２３名	・何もしない	２名
・親に理由を聞く	１９名		
・誰かに相談する（大家・近所・専門家など）	１７名		
・親に注意する	１３名		
・親と相談する	１２名		
・訪ねる・様子を見に行く	１０名		
・子どもに事情を聞く	７名		
・その他	５名		
A２群		**B２群**	
・誰かに相談する（大家・近所・専門家など）	２７名	・何もしない	１８６名
・親に理由を聞く	３名	・引っ越す	２名
・止める	２名	・その他	２名
・様子を見に行く	２名		
・親に注意する	１名		
・その他	２名		

表３－１　理由面での分類（男性）

A１群		B１群	
・子どもが可哀想	９２名	・子どもが可哀想	６名
・子どもを叩くのは良いことではないから	３２名		
・ものには限度がある	２０名		
・止めるのが当然だから	１７名		
・親に理由を聞く（情報収集する）	１７名		
・その他	２３名		
A２群		**B２群**	
・うるさい・近所迷惑だから	３０名	・他人のことだから	１１２名
・何も出来ない	９名	・怖い・関わりたくない	３６名
・怖い・関わりたくない	８名	・原因不明・何か理由があるかもしれないから	１８名
・他人のことだから	８名	・何も出来ない	５名
・そういう親には何を言っても無駄だから	６名	・その他	１５名
・その他	８名		

表３－２　理由面での分類（女性）

Ａ１群

・子どもが可哀想	４１名
・親に理由を聞く（情報収集する）	１８名
・子どもを叩くのは良いことではないから	１２名
・止めるのが当然だから	１２名
・ものには限度がある	５名
・その他	１６名

Ｂ１群

・子どもが可哀想	１名
・その他	１名

Ａ２群

・何も出来ない	１５名
・怖い・関わりたくない	８名
・他人のことだから	５名
・うるさい・近所迷惑だから	３名
・そういう親には何を言っても無駄だから	２名
・その他	４名

Ｂ２群

・他人のことだから	３８名
・怖い・関わりたくない	１４名
・言っても無駄だから	１０名
・原因不明・何か理由があるかもしれないから	９名
・何も出来ない	４名
・その他	６名

表４－１　積極性によるイメージの差（全体）

有意水準５％で有意差の認められた項目は　＊　で示してある。

	Ａ１Ａ２	Ａ１Ｂ１	Ａ１Ｂ２	Ａ２Ｂ１	Ａ２Ｂ２	Ｂ１Ｂ２
01：一般的に女性には母性愛があると思う						
02：一般的に男性には母性愛がないと思う						
03：一般的に母親の方が育児はうまいと思う						
04：一般的に父親は育児が下手だと思う						
05：乳幼児が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う			＊			
06：小学生が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う						
07：中学生以上が親が言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う						
08：子どもを虐待するのは実の父母よりまま母まま父の方が多いと思う						
09：子どもを虐待するのは母親より父親の方が多いと思う		＊		＊		＊
10：子どもを虐待する親は育児下手だと思う			＊			
11：子どもを虐待する親には同情できない			＊			
12：子どもを虐待する親の気持ちは理解出来ない			＊			
13：子どもを虐待する親には社会的制裁が加えられるべきだと思う			＊			
14：子どもを虐待する親には適切な治療がなされるべきだと思う	＊		＊			

表４－２　積極性によるイメージの差（男性）

有意水準５％で有意差の認められた項目は　＊　で示してある。

	A1A2	A1B1	A1B2	A2B1	A2B2	B1B2
01：一般的に女性には母性愛があると思う						
02：一般的に男性には母性愛がないと思う						
03：一般的に母親の方が育児はうまいと思う						
04：一般的に父親は育児が下手だと思う						
05：乳幼児が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う			＊			
06：小学生が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う						
07：中学生以上が親が言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う						
08：子どもを虐待するのは実の父母よりまま母まま父の方が多いと思う						
09：子どもを虐待するのは母親より父親の方が多いと思う		＊		＊		＊
10：子どもを虐待する親は育児下手だと思う			＊			
11：子どもを虐待する親には同情できない			＊			
12：子どもを虐待する親の気持ちは理解出来ない			＊			
13：子どもを虐待する親には社会的制裁が加えられるべきだと思う			＊			
14：子どもを虐待する親には適切な治療がなされるべきだと思う	＊		＊			

表4－3　積極性によるイメージの差（女性）

有意水準5％で有意差の認められた項目は　＊　で示してある。

	A1A2	A1B1	A1B2	A2B1	A2B2	B1B2
01：一般的に女性には母性愛があると思う						
02：一般的に男性には母性愛がないと思う						
03：一般的に母親の方が育児はうまいと思う						
04：一般的に父親は育児が下手だと思う			＊			
05：乳幼児が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う			＊			＊
06：小学生が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う	＊				＊	＊
07：中学生以上が親が言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う						
08：子どもを虐待するのは実の父母よりまま母まま父の方が多いと思う						
09：子どもを虐待するのは母親より父親の方が多いと思う						
10：子どもを虐待する親は育児下手だと思う						
11：子どもを虐待する親には同情できない						
12：子どもを虐待する親の気持ちは理解出来ない						
13：子どもを虐待する親には社会的制裁が加えられるべきだと思う		＊		＊		＊
14：子どもを虐待する親には適切な治療がなされるべきだと思う						

表５－１　回答の関連性（全体）

有意水準１％で有意差の認められた項目は　◎、

有意水準５％で有意差の認められた項目は　○、

有意差の認められなかった項目は　×　で示してある。

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14
01：一般的に女性には母性愛があると思う		◎	◎	◎	×	×	×	×	◎	◎	◎	○	×	×
02：一般的に男性には母性愛がないと思う	◎		◎	◎	×	○	×	×	◎	◎	×	○	○	○
03：一般的に母親の方が育児はうまいと思う	◎	◎		◎	×	○	◎	◎	◎	×	◎	◎	×	○
04：一般的に父親は育児が下手だと思う	◎	◎	◎		×	×	×	◎	◎	○	◎	◎	◎	×
05：乳幼児が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う	×	×	×	×		◎	◎	×	×	◎	○	○	○	×
06：小学生が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う	×	○	○	×	◎		◎	◎	×	×	◎	◎	◎	◎
07：中学生以上が親が言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う	×	×	◎	×	◎	◎		○	○	◎	○	×	◎	◎
08：子どもを虐待するのは実の父母よりまま母まま父の方が多いと思う	×	×	◎	◎	×	◎	○		◎	◎	◎	◎	◎	◎
09：子どもを虐待するのは母親より父親の方が多いと思う	◎	◎	◎	◎	×	×	○	◎		◎	◎	◎	×	×
10：子どもを虐待する親は育児下手だと思う	◎	◎	×	○	◎	×	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎
11：子どもを虐待する親には同情出来ない	◎	×	◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎		◎	◎	◎
12：子どもを虐待する親の気持ちは理解出来ない	○	○	◎	◎	○	◎	×	◎	◎	◎	◎		◎	◎
13：子どもを虐待する親には社会的制裁が加えられるべきだと思う	×	○	×	◎	○	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎		◎
14：子どもを虐待する親には適切な治療がなされるべきだと思う	×	○	○	×	×	◎	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	

表５－２　回答の関連性（男性）

有意水準１％で有意差の認められた項目は　◎、

有意水準５％で有意差の認められた項目は　○、

有意差の認められなかった項目は　×　で示してある。

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14
01：一般的に女性には母性愛があると思う		◎	◎	◎	×	×	×	×	◎	◎	○	○	○	×
02：一般的に男性には母性愛がないと思う	◎		◎	◎	×	○	×	×	○	◎	×	○	×	×
03：一般的に母親の方が育児はうまいと思う	◎	◎		◎	×	○	◎	◎	◎	×	○	○	×	○
04：一般的に父親は育児が下手だと思う	◎	◎	◎		×	×	×	○	◎	○	○	○	○	○
05：乳幼児が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う	×	×	×	×		◎	◎	×	×	◎	◎	◎	◎	×
06：小学生が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う	×	○	○	×	◎		◎	○	×	×	○	○	◎	◎
07：中学生以上が親が言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う	×	×	◎	×	◎	◎		×	○	○	◎	○	◎	◎
08：子どもを虐待するのは実の父母よりまま母まま父の方が多いと思う	×	×	◎	○	×	○	×		◎	○	◎	○	○	○
09：子どもを虐待するのは母親より父親の方が多いと思う	◎	○	◎	◎	×	×	○	◎		○	○	×	×	×
10：子どもを虐待する親は育児下手だと思う	◎	◎	×	○	◎	×	○	○	○		◎	◎	◎	◎
11：子どもを虐待する親には同情出来ない	○	×	○	○	◎	○	◎	◎	○	◎		◎	◎	◎
12：子どもを虐待する親の気持ちは理解出来ない	○	○	○	○	◎	○	○	○	×	◎	◎		◎	◎
13：子どもを虐待する親には社会的制裁が加えられるべきだと思う	○	×	×	○	◎	◎	◎	○	×	◎	◎	◎		◎
14：子どもを虐待する親には適切な治療がなされるべきだと思う	×	×	×	○	×	◎	◎	○	×	◎	◎	◎	◎	

表５－３　回答の関連性（女性）

有意水準１％で有意差の認められた項目は　◎、

有意水準５％で有意差の認められた項目は　○、

有意差の認められなかった項目は　×　で示してある。

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14
01：一般的に女性には母性愛があると思う		○	◎	○	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
02：一般的に男性には母性愛がないと思う	○		◎	◎	×	×	×	×	○	○	×	×	○	×
03：一般的に母親の方が育児はうまいと思う	◎	○		◎	×	×	×	◎	◎	×	◎	◎	×	×
04：一般的に父親は育児が下手だと思う	○	○	◎		×	×	×	◎	○	×	×	×	○	○
05：乳幼児が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う	×	×	×	×		◎	◎	×	×	×	×	○	×	×
06：小学生が親の言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う	×	×	×	×	◎		◎	○	×	×	○	◎	×	×
07：中学生以上が親が言うことを聞かなければ体罰も仕方ないと思う	×	×	×	×	◎	◎		×	×	×	×	×	×	×
08：子どもを虐待するのは実の父母よりまま母まま父の方が多いと思う	○	×	◎	◎	×	○	×		◎	○	○	○	×	×
09：子どもを虐待するのは母親より父親の方が多いと思う	○	○	◎	○	×	×	×	◎		×	◎	◎	×	×
10：子どもを虐待する親は育児下手だと思う	×	○	×	×	×	×	×	○	×		◎	◎	◎	◎
11：子どもを虐待する親には同情出来ない	○	×	◎	×	×	○	×	○	◎	◎		◎	◎	◎
12：子どもを虐待する親の気持ちは理解出来ない	×	×	◎	×	○	◎	×	×	◎	◎	◎		◎	◎
13：子どもを虐待する親には社会的制裁が加えられるべきだと思う	×	○	×	○	×	×	×	×	×	◎	◎	◎		◎
14：子どもを虐待する親には適切な治療がなされるべきだと思う	×	×	×	○	×	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	

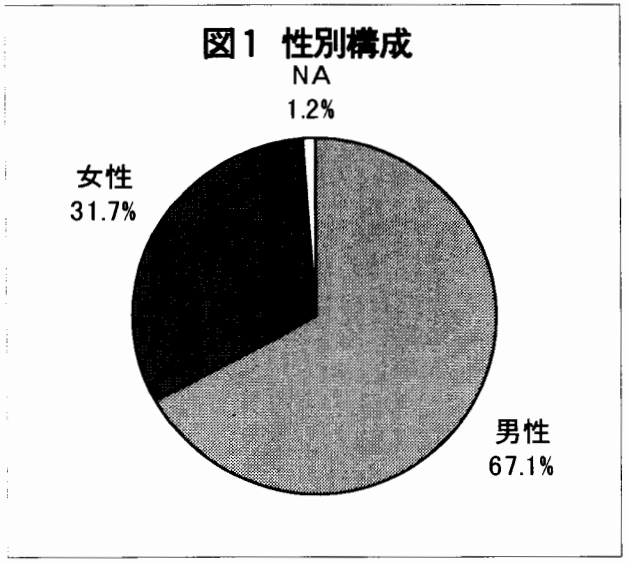
図1 性別構成
NA
1.2%
女性
31.7%
男性
67.1%

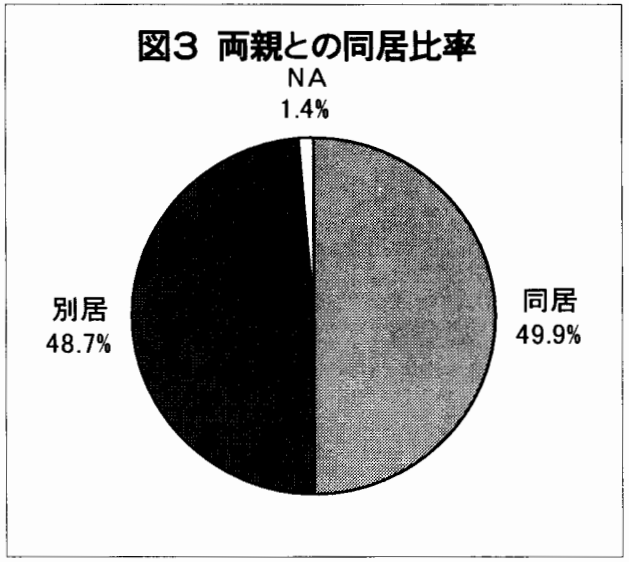
図3 両親との同居比率
NA
1.4%
別居
48.7%
同居
49.9%

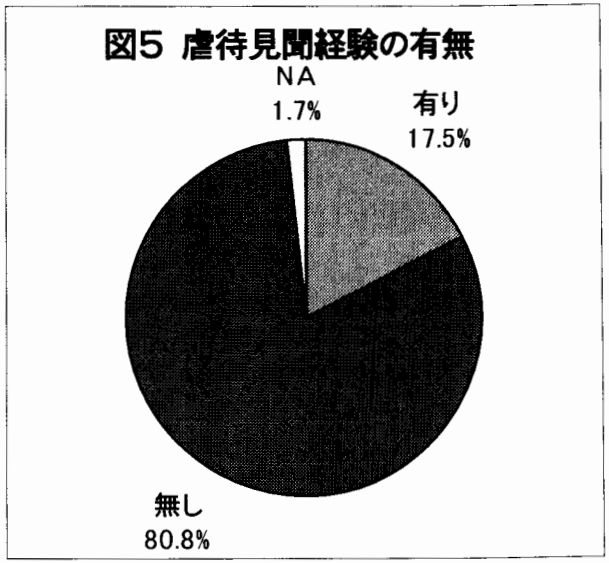
図5 虐待見聞経験の有無
NA
1.7%
有り
17.5%
無し
80.8%

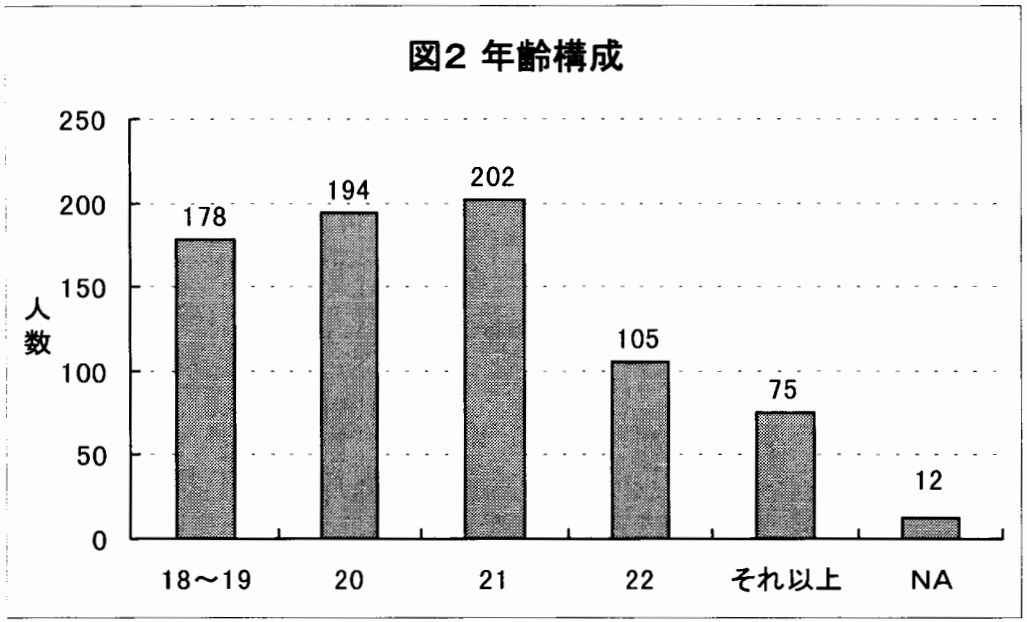
図2 年齢構成
人数
250
200
150
100
50
0
178
194
202
105
75
12
18～19
20
21
22
それ以上
NA

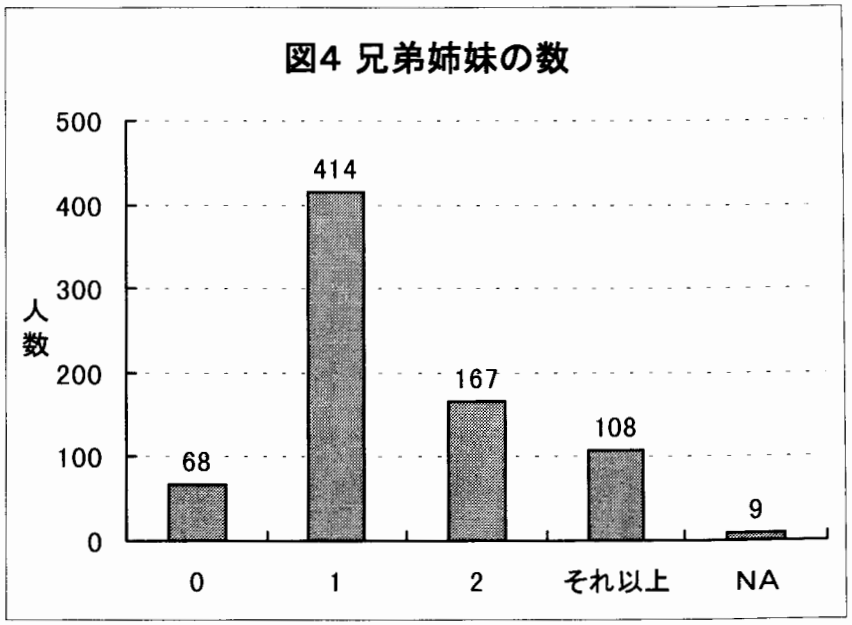
図4 兄弟姉妹の数
人数
500
400
300
200
100
0
68
414
167
108
9
0
1
2
それ以上
NA

図6-A 「虐待」のイメージ

サンプル数： 男- 514 女- 213
一人当たりの平均回答数： 男-1.62 女-1.80

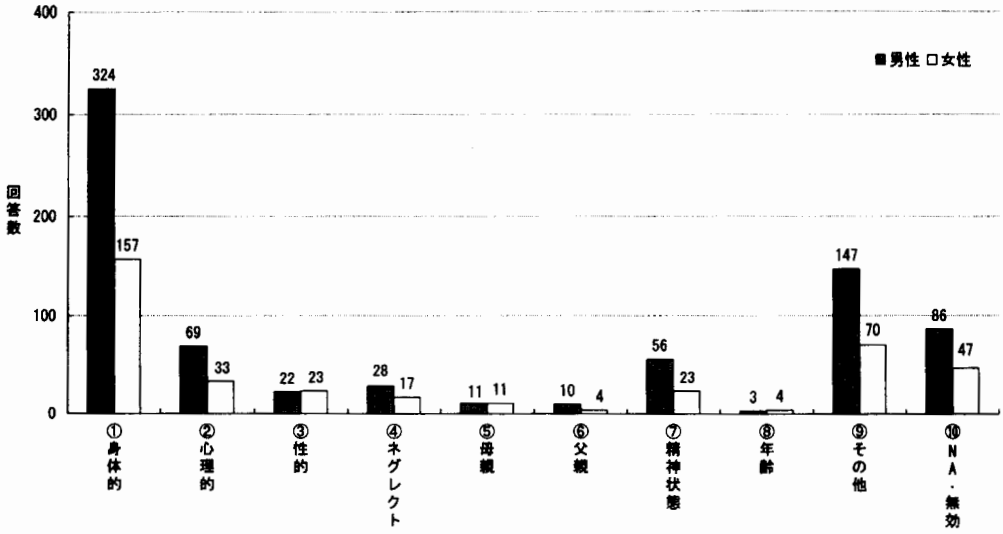

図6-B 「虐待」のイメージ

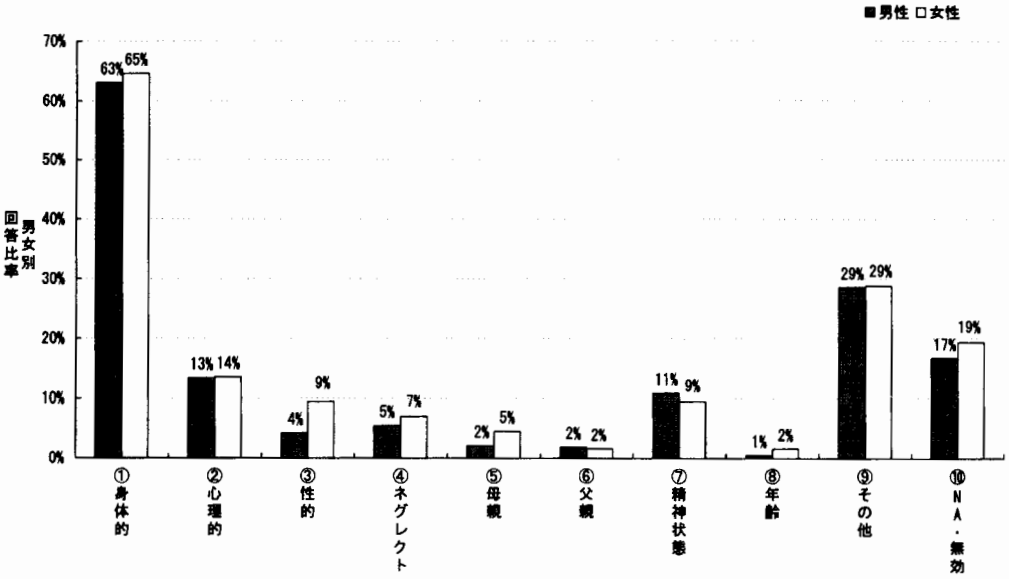

図7 積極性による考え方の差

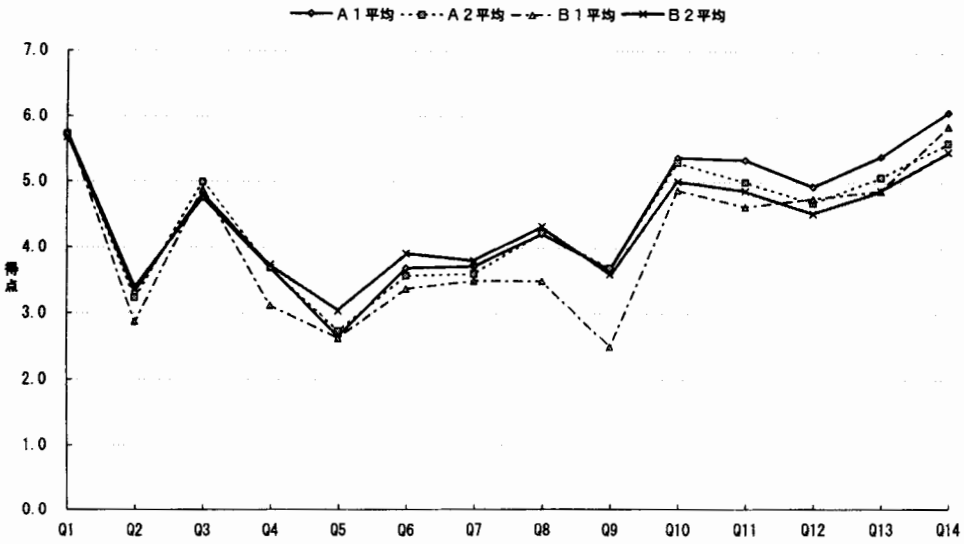

図8-A 「躾」と「虐待」の差

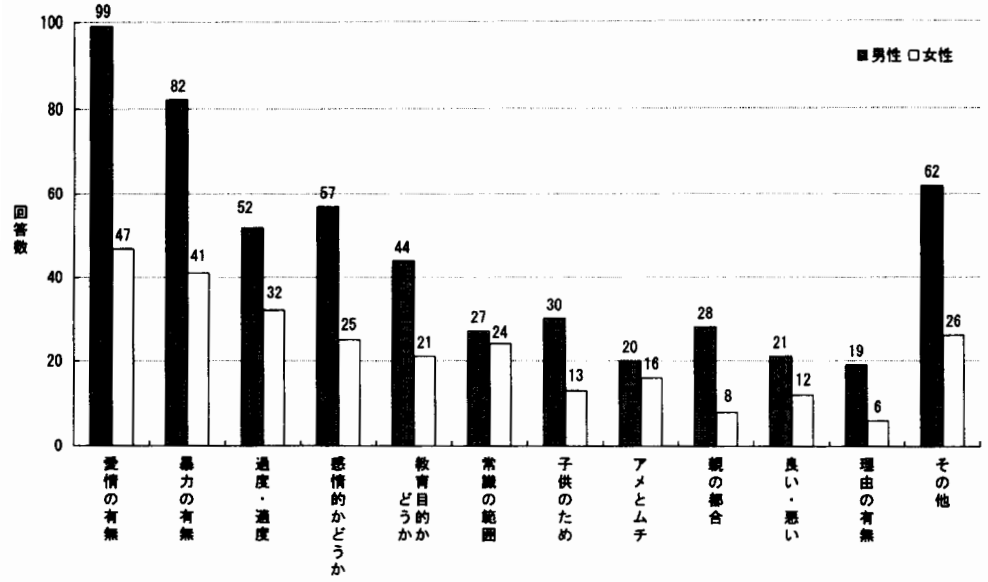

図8-B 「躾」と「虐待」の差

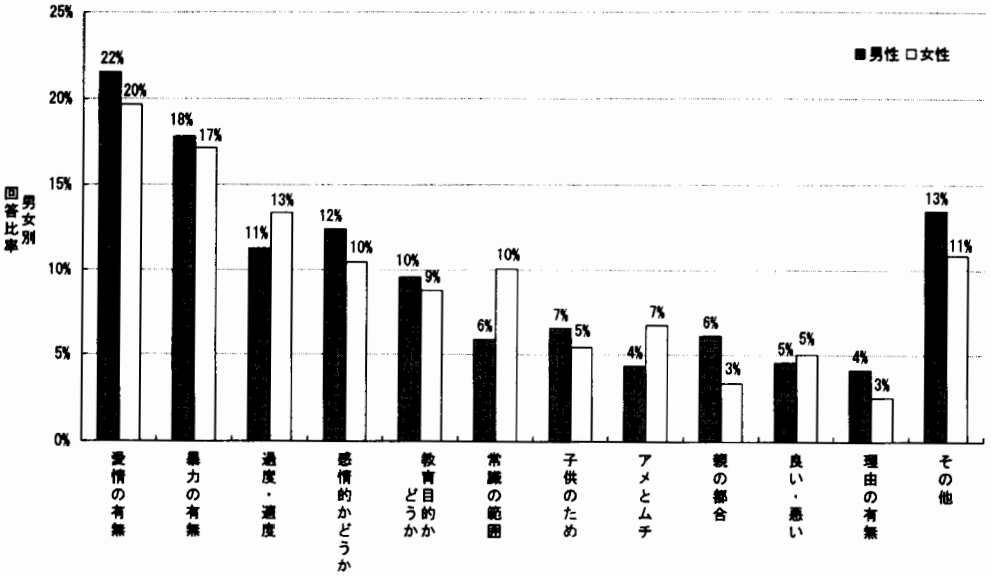
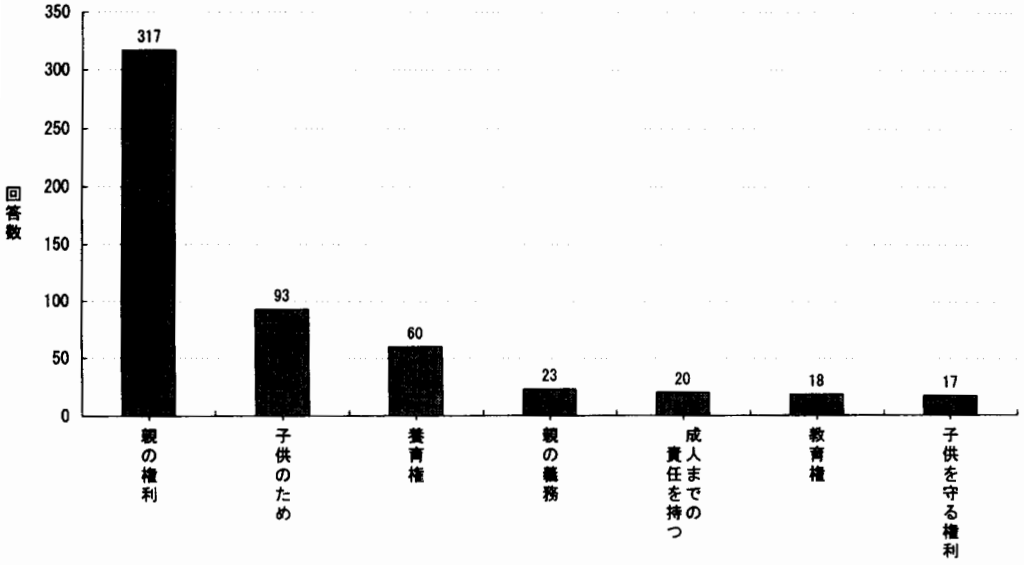
図9 「親権」とは